

公益財団法人 仁科記念財団

平成 29 年度 事業報告書

仁科記念財団の公益目的事業は、定款第 4 条に掲げられている通り、広い意味の原子物理学およびその応用に関する研究において（1）きわめて優秀な成果を収めた者に対する仁科記念賞など褒賞の授与（2）著名な研究者による仁科記念講演会など学術的交流・集会の開催（3）歴史的に貴重な資料・図書などの発掘・研究・保存・公開のための仁科記念室の運営（4）知識および思想を普及啓発するための出版物刊行などの活動（5）優秀な人材の海外への派遣および外国からの受け入れの助成である。

平成 29 年度は、以下の公益目的事業を行った。

1. 仁科記念賞

仁科記念賞は、広い意味での原子物理学およびその応用に関して顕著な業績をあげた比較的若い研究者に授けられる賞で、当財団創設の 1955 年以来、毎年数名の将来性豊かな研究者に授与されてきた。これまでの受賞者の総数は 186 名（今年度は武居弘樹氏、安達千波矢氏、甲元真人氏の 3 名）となり、その中からは国内外で著名な賞に輝いた受賞者が多く、研究者社会において仁科記念賞の価値と名誉は広く認められている。たとえば、ノーベル物理学賞受賞者 6 名（江崎玲於奈氏：1959 年仁科記念賞受賞、小林誠氏、益川敏英氏：1979 年、小柴昌俊氏：1987 年、中村修二氏：1996 年、梶田隆章氏：1999 年）、文化勲章受章者・文化功労者 19 名、恩賜賞・日本学士院賞受賞者 33 名となっている。

仁科記念賞規程では、① 6 月 1 日から 8 月 31 日の 3 ヶ月間、当財団ホームページ、日本物理学会誌、日本化学会誌等に、仁科記念賞候補者募集要項を公表するとともに、広く学識者からの推薦を公募し ② 授賞件数は 3 件以内 ③ 選考は選考委員会で行い受賞者には、賞状、賞牌と 1 件当たり 500 千円の副賞を授ける ④ 選考結果は理事会の承認を得た後すみやかに新聞紙上等に公表 ⑤ 授賞式は仁科芳雄博士の誕生日の 12 月 6 日に、これまでの受賞者、選考委員、運営諮問委員、助言委員、顧問、評議員、役員の参加する研究交流の場で行うこととしている。

平成 29 年度第 63 回仁科記念賞もこの規程の通り選考が行われた。選考委員会（藤川和男委員長他 13 名）は、今年度推薦のあった 7 件の候補に昨年度有力候補として残った 4 件を加えた 11 件について慎重に審議した結果、前掲の 3 件（3 名）に授与することとした。この結果は平成 29 年 10 月 27 日に開催された第 23 回理事会において承認され、11 月 10 日に日本アイソトープ協会会議室において新聞発表を行った。授賞式は仁科芳雄博士の誕生日の 12 月 6 日（水）に如水会館（千代田区一ツ橋）にて執り行われた。

- ・受賞者：武居 弘樹（日本電信電話株式会社 NTT 物性科学基礎研究所 上席特別研究員）
- ・業績題目：大規模コヒーレントイジングマシンの実現

- ・3月31日、放送大学TVチャンネルで、放送大学・NHK制作の「科学技術立国への挑戦～理化学研究所の100年を通して～」が放映された。その中で、仁科研究室の歴史が当時の映像を交えて紹介され、現在の仁科記念室と1923年に仁科博士がN.ポーアに宛てた手紙のレプリカも紹介された。

(2) 見学者

- ・岡山県里庄町中学生（9名）、引率の先生他
 日時：2017年8月1日 13:00～15:00
 見学会名：第20回「仁科芳雄博士の足跡を訪ねて」
 主催者：公益財団法人科学振興仁科財団、里庄町、里庄中学校
 目的：仁科博士の出身地の岡山県里庄町で選抜された中学生を対象にした「仁科博士の足跡をたどる国内研修の旅」の一環
 生徒たちはアイソトープ協会会議室で矢野常務理事と小林理事長の話を聴いたあと、矢野常務理事の案内で仁科記念室とサイクロトロンモニュメントを見学した。
- ・2018年2月21日、東京農工大学OB8名の見学があった、
- ・3月1日、理研100周年史編集委員会7名の見学があった。
- ・3月23日、記録管理学会主催の第158回記録管理学会例会「仁科記念財団に関する講演と保管資料等の見学」がアイソトープ協会第3会議室で1開催され、仁科記念室の見学があった。講演は矢野常務理事。参加者15名。

(3) 資料の整理

- ・第一次史料のpdfファイル化を進めた。

(4) 仁科記念室および小サイクロトロンモニュメントの移設について

- ・2017年11月8日、日本アイソトープ協会有馬朗人会長から小林理事長への「仁科記念財団事務室および仁科記念室（小サイクロトロンモニュメントを含む）の移転に関する」正式な要請書を受領した。
- ・12月17日付の小林理事長から有馬会長への「2019年末までに仁科記念室を移転する」旨の回答書が協会理事会で確認された。
- ・松本洋一郎、加藤重治理研理事の見学があった
- ・2018年1月22日、理研の和光事業所長、理事長室長、総務担当副理事、総務部長、経営企画部長、研究支援部長が、仁科記念室を視察し、移転に向けての基本方針について意見交換した。

4. 研究関連等の出版

- ・NKZ No.58 第63回定例仁科記念講演会講演録：「電子系のトポロジー —トポロジカル絶縁体・超伝導体・半金属—」川上 則雄、「磁性とトポロジー —磁石がつくるトポロジカル粒子—」十倉好紀（2018年3月）を刊行した。

公益財団法人 仁科記念財団
平成 30 年度 事業報告書

仁科記念財団の公益目的事業は、定款第 4 条に掲げられている通り、広い意味の原子物理学およびその応用に関する研究において（1）きわめて優秀な成果を収めた者に対する仁科記念賞など褒賞の授与（2）著名な研究者による仁科記念講演会など学術的交流・集会の開催（3）歴史的に貴重な資料・図書などの発掘・研究・保存・公開のための仁科記念室の運営（4）知識および思想を普及啓発するための出版物刊行などの活動（5）優秀な人材の海外への派遣および外国からの受け入れの助成である。

平成 30 年度は、以下の公益目的事業を行った。

1. 仁科記念賞

仁科記念賞は、広い意味での原子物理学およびその応用に関して顕著な業績をあげた比較的若い研究者に授けられる賞で、当財団創設の 1955 年以来、毎年数名の将来性豊かな研究者に授与されてきた。これまでの受賞者の総数は 188 名（今年度は柴田大氏、田中耕一郎氏の 2 名）となり、その中からは国内外で著名な賞に輝いた受賞者が多く、研究者社会において仁科記念賞の価値と名誉は広く認められている。たとえば、ノーベル物理学賞受賞者 6 名（江崎玲於奈氏：1959 年仁科記念賞受賞、小林誠氏、益川敏英氏：1979 年、小柴昌俊氏：1987 年、中村修二氏：1996 年、梶田隆章氏：1999 年）、文化勲章受章者・文化功労者 19 名、恩賜賞・日本学士院賞受賞者 32 名となっている。

仁科記念賞規程では、① 6 月 1 日から 8 月 31 日の 3 ヶ月間、当財団ホームページ、日本物理学会誌、日本化学会誌等に、仁科記念賞候補者募集要項を公表するとともに、広く学識者からの推薦を公募し ② 授賞件数は 3 件以内 ③ 選考は選考委員会で行い受賞者には、賞状、賞牌と 1 件当たり 500 千円の副賞を授ける ④ 選考結果は理事会の承認を得た後すみやかに新聞紙上等に公表 ⑤ 授賞式は仁科芳雄博士の誕生日の 12 月 6 日に、これまでの受賞者、選考委員、運営諮問委員、助言委員、顧問、評議員、役員の参加する研究交流の場で行うこととしている。

平成 30 年度第 64 回仁科記念賞もこの規程の通り選考が行われた。選考委員会（安藤恒也委員長他 13 名）は、今年度推薦のあった 15 件の候補について慎重に審議した結果、前掲の 2 件（2 名）に授与することとした。この結果は平成 30 年 10 月 26 日に開催された第 26 回理事会において承認され、11 月 9 日に日本アイソトープ協会会議室において新聞発表を行った。授賞式は仁科芳雄博士の誕生日の 12 月 6 日（水）に如水会館（千代田区一ツ橋）にて執り行われた。また、授賞記事は、当財団ホームページに加えて、本年度より Association of Asia Pacific Physical Societies (AAPPS) の Bulletin にも公開されることとなった。

・受賞者：柴田 大 (Max Planck Institute for Gravitational Physics, Director, 京

- ・ 8月15日、毎日新聞夕刊に仁科記念室の記事が掲載された。

(2) 見学者

- ・ 4月18日の朝日新聞朝刊に、仁科博士が原爆投下直後の広島・長崎の被害状況を現地で書き留めた通称「仁科ノート」を基軸にした高橋源一郎氏の寄稿が掲載された。寄稿文では、作家の目で「二号研究とは一体何だったのか」が語られ、その中に、案内人の矢野常務理事が、日本の未来を担う部下の俊英たちを戦地に送らないための方便であったのではないかと想像するくだりがある。仁科記念室の写真が大きく掲載され、末尾には「記念室のある建物は再来年以降に取り壊される」と記述されている。
- ・ 4月27日、国立科学博物館の若林文高研究部長と有賀暢迪研究員が仁科記念室を見学し、仁科記念室移転に関して意見を交換した。小サイクロトロン博物館への移設は床の耐荷重がないので不可能、また、展示室内に仁科記念室を復元することも財政上無理であろうとのことであった。ただし、映像展示は試みてみたいということで、物品の移設前に仁科記念室内部を撮影したいということであった。
- ・ 6月5日、(社)日本倶楽部(1905年創設)の3名が仁科記念室を見学した。仁科博士は1945年10月18日に日本倶楽部で「原子爆弾について」という講演を行ったと記録にあるので、関連する写真や「仁科ノート」、原爆投下直後にトルーマン大統領が行ったラジオ放送を同盟通信が翻訳して仁科博士に届けた「敵性情報」のコピーを展示したいということであった。
- ・ 8月1日、恒例の里庄中学生の仁科記念室見学会(第21回「仁科芳雄博士の足跡を訪ねて」主催:公益財団法人科学振興仁科財団、里庄町、里庄中学校)があった。見学者は中学3年生9名(女子7名男子2名)、引率の先生、仁科記念会館事務局長に加えて、加藤泰久町長であった。生徒たちはアイソトープ協会会議室で矢野常務理事と小林理事長の話を聴いたあと、矢野常務理事の案内で仁科記念室とサイクロトンモニュメントを見学した。
- ・ 3月22日、小石川中等教育学校の中学3年生22名と引率の教諭2名が仁科記念室と小サイクロトンを見学した。この見学の前に、矢野常務理事が小石川中等教育学校で「仁科芳雄博士」の講演を行った。

(3) 資料の整理

- ・ 第一次史料のpdfファイル化を進めた。

(4) 仁科記念室および小サイクロトンモニュメントの移設について

- ・ 6月20日、里庄仁科会館の田主裕一朗事務局長から、仁科記念室を和光に移転する計画について会館として賛同する旨のメールを頂いた。

- ・6月29日、理研の船田孝司和光事業所長他仁科記念室移転担当事務の視察があり、今後の予定について意見交換をした。現在、移転予定物品が理研の資産になっているかどうか調査中とのこと。
- ・総合研究大学院大学の伊藤憲二准教授（科学史）が、財団打ち合わせ室のキャビネットの中に保管されていた「横山資料」と書かれた箱の中から仁科博士の大量の未公開書簡を発見した。
- ・9月18日、松本紘理研理事長が日本アイソトープ協会と仁科記念財団を訪問された。3者での挨拶に続いて、矢野常務理事から旧理研の歴史が紹介され、仁科記念室と小サイクロトロンのご案内があった。出席者は、財団から小林理事長、山崎敏光評議員会長、矢野常務理事、理研から松本理事長、古屋輝夫理事長室長他事務4名、協会から、山下孝専務理事、二ッ川章二、勝村庸介、市川英明常務理事、古川修専任理事他事務2名であった。
- ・11月9日、理研の石井康彦監事が仁科記念室を見学し、移転案等について意見交換した。
- ・11月29日、理研の船田孝司和光事業所長が仁科記念室を見学し、移転案等について意見交換した。
- ・1月25日、有馬朗人日本アイソトープ協会会長が仁科記念室を短時間訪問され、仁科博士の椅子に腰かけている写真を撮影させていただいた。

4. 研究関連等の出版

- ・2018年度版仁科記念財団案内（2018年6月）を刊行した。

5. 研究者の海外派遣・招聘

本財団は、若手研究者の海外派遣・招聘事業に替わる新たな支援事業として、平成24年度にアジアの若手研究者を鼓舞激励する Nishina Asia Award を創設した。

Nishina Asia Award は、アジアに研究基盤をおいて極めて優れた成果を挙げた日本以外のアジアの若手研究者（学位取得後15年以内）を毎年1名選考して、賞状と賞牌および賞金400千円を仁科記念賞授賞式場で授与し、さらに授賞式の前約2週間、わが国研究者との研究交流を助成するという事業で、これを研究者の海外派遣・招聘事業予算で実施する。選考は Nishina Asia Award 規程に則り当該選考委員会（江口徹委員長他11名）で行い、選考結果は理事長の承認を得て9月初旬には受賞者に通知される。

第6回となる2018年 Nishina Asia Award の候補者募集要項を平成30年1月1日から3月31日の3ヶ月間、当財団ホームページに掲示するとともに、広く世界の学識者からの推薦を公募した結果、14件（中国7件、韓国3件、インド1件、台湾1件、ベトナム1件、シンガポール1件）の推薦があった。選考委員会で慎重に選考した結果、台湾籍の Yu-Tin Huang 氏（Associate Professor, National Taiwan University）に ”for his

公益財団法人 仁科記念財団
令和元年度（2019年度）事業報告書

仁科記念財団の公益目的事業は、定款第4条に掲げられている通り、広い意味の原子物理学およびその応用に関する研究において（1）きわめて優秀な成果を収めた者に対する仁科記念賞など褒賞の授与（2）著名な研究者による仁科記念講演会など学術的交流・集会の開催（3）歴史的に貴重な資料・図書などの発掘・研究・保存・公開のための仁科記念室の運営（4）知識および思想を普及啓発するための出版物刊行などの活動（5）優秀な人材の海外への派遣および外国からの受け入れの助成である。

令和元年度（2019年度）は、以下の公益目的事業を行った。

1. 仁科記念賞

仁科記念賞は、広い意味での原子物理学およびその応用に関して顕著な業績をあげた比較的若い研究者に授けられる賞で、当財団創設の昭和30年（1955年）以来、毎年数名の将来性豊かな研究者に授与されてきた。これまでの受賞者の総数は191名（本年度は岩佐義宏氏、および吉田滋氏と石原安野氏の2件3名）となり、その中からは国内外で著名な賞に輝いた受賞者が多く、研究者社会において仁科記念賞の価値と名誉は広く認められている。たとえば、ノーベル物理学賞受賞者6名（江崎玲於奈氏：1959年仁科記念賞受賞、小林誠氏、益川敏英氏：1979年、小柴昌俊氏：1987年、中村修二氏：1996年、梶田隆章氏：1999年）、文化勲章受章者13名、文化功労者19名、恩賜賞受賞者9名、日本学士院賞受賞者30名となっている。

仁科記念賞規程では、①6月1日から8月31日の3ヶ月間、当財団ホームページ、日本物理学会誌、日本化学会誌等に、仁科記念賞候補者募集要項を公表するとともに、広く学識者からの推薦を公募し②授賞件数は3件以内③選考は選考委員会で行い受賞者には、賞状、賞牌と1件当たり50万円の副賞を授ける④選考結果は理事会の承認を得た後すみやかに新聞紙上等に公表⑤授賞式は仁科芳雄博士の誕生日の12月6日に、これまでの受賞者、選考委員、運営諮問委員、助言委員、顧問、評議員、役員の参加する研究交流の場で行うこととしている。

本年度第65回仁科記念賞もこの規程の通り選考が行われた。選考委員会（安藤恒也委員長他13名）は、今年度推薦のあった21件の候補について慎重に審議した結果、前掲の2件（3名）に授与することとした。この結果は令和元年10月21日に開催された第30回理事会において承認され、11月7日に日本アイソトープ協会会議室において新聞発表を行った。授賞式は仁科芳雄博士の誕生日の12月6日に東京會館（千代田区丸の内）にて執り行われた。また、受賞記事は、当財団ホームページに加えて、Association of Asia Pacific Physical Societies（AAPPS）のBulletinにも公開された。

・受賞者：岩佐義宏（東京大学大学院工学系研究科 教授）

- ・1月15日、広島市原爆被害対策部課長、同主事、広島平和記念資料館学芸員が、理研に来訪し、広報室長、前広報室長、安全管理部長、矢野常務理事と、仁科博士が原爆被害調査時に理研に送った「サンプル」の今後の取り扱いについて意見交換した。本件については、広島市長にも話を上げているということであった。

(4) 仁科記念室および小サイクロトロンモニユメントの移設について

- ・6月21日に、理研和光事業所長他と日本アイソトープ協会総務部との間で「小サイクロトロンと仁科記念室の入口扉、電気設備等の寄付」について第1回の打ち合わせがもたれた。
- ・8月27日、和光事業所長、広報室長が、アイソトープ協会専務理事、総務部長を訪問。協会物品（小サイクロトロンモニユメントを含む）の理研への寄付について具体的な詰めを行った。
- ・9月12日から、仁科記念室内の「古文書」「仁科記念文庫」の和光事業所への搬出が始まった。財団から理研への寄付物品の詳細な目録を理研史料室が作成した。
- ・(株)トプコンによる仁科記念室内部の3次元レーザー測量と写真撮影が行われた。トプコンは、これを「歴史的建造物のデジタルアーカイブズ」として利用するので、無償。データは、理研広報室と当財団に提供された。
- ・10月末までに、仁科記念室内に保存されていた、仁科博士の調度品、遺品、書籍、書簡等をすべて理研和光事業所内の史料室等に搬送した。入口扉、電灯、分電盤も取り外して搬送。スチーム暖房機等は、建物の解体時に取り外して搬送する。
- ・搬出に先立って、NHK広島支局が2日間、往時の調度品の配置で、室内を詳細に撮影した。

4. 研究関連等の出版

- ・2019年度版仁科記念財団案内（2019年6月）を刊行した。
- ・レンタルサーバーを、WordPressアプリ（ホームページ編集が簡便）に対応した「さくらインターネット」に乗り換え、ホームページを全面リニューアルした。第1回（1955年）からの仁科記念賞推薦理由書、仁科記念講演録（NKZシリーズ）、仁科芳雄博士遺稿集「原子力と私」、広島・長崎原爆被害調査「仁科ノート」（自筆）、原著論文の一部を公開。

5. 研究者の海外派遣・招聘

本財団は、若手研究者の海外派遣・招聘事業に替わる新たな支援事業として、平成24年度（2012年度）にアジアの若手研究者を鼓舞激励するNishina Asia Awardを創設した。

Nishina Asia Awardは、アジアに研究基盤をおいて極めて優れた成果を挙げた日本以外のアジアの若手研究者（学位取得後15年以内）を毎年1名選考して、賞状と賞牌およ

公益財団法人 仁科記念財団
令和 2 年度（2020 年度）事業報告書

仁科記念財団の公益目的事業は、定款第 4 条に掲げられている通り、広い意味の原子物理学およびその応用に関する研究において（1）きわめて優秀な成果を収めた者に対する仁科記念賞など褒賞の授与（2）著名な研究者による仁科記念講演会など学術的交流・集会の開催（3）歴史的に貴重な資料・図書などの発掘・研究・保存・公開のための仁科記念室の運営（4）知識および思想を普及啓発するための出版物刊行などの活動（5）優秀な人材の海外への派遣および外国からの受け入れの助成である。

令和 2 年度（2020 年度）は、以下の公益目的事業を行った。

1. 仁科記念賞

仁科記念賞は、広い意味での原子物理学およびその応用に関して顕著な業績をあげた比較的若い研究者に授けられる賞で、当財団創設の昭和 30 年（1955 年）以来、毎年数名の将来性豊かな研究者に授与されてきた。これまでの受賞者の総数は 193 名（本年度は鹿野田一司氏、および仲澤和馬氏の 2 件 2 名）となり、その中からは国内外で著名な賞に輝いた受賞者が多く、研究者社会において仁科記念賞の価値と名誉は広く認められている。たとえば、ノーベル物理学賞受賞者 6 名（江崎玲於奈氏：1959 年仁科記念賞受賞、小林誠氏、益川敏英氏：1979 年、小柴昌俊氏：1987 年、中村修二氏：1996 年、梶田隆章氏：1999 年）、文化勲章受章者 14 名（本年度は近藤淳氏：1968 年）、文化功労者 20 名（本年度は十倉好紀氏：1990 年）、恩賜賞受賞者 9 名、日本学士院賞受賞者 30 名となっている。

仁科記念賞規程では、① 6 月 1 日から 8 月 31 日の 3 ヶ月間、当財団ホームページ、日本物理学会誌、日本化学会誌等に、仁科記念賞候補者募集要項を公表するとともに、広く学識者からの推薦を公募し ② 授賞件数は 3 件以内 ③ 選考は選考委員会で行い受賞者には、賞状、賞牌と 1 件当たり 60 万円の副賞を授ける ④ 選考結果は理事会の承認を得た後すみやかに新聞紙上等に公表 ⑤ 授賞式は仁科芳雄博士の誕生日の 12 月 6 日に、これまでの受賞者を含めた研究交流の懇談会の場で行うこととしている。

本年度第 66 回仁科記念賞もこの規程の通り選考が行われた。選考委員会（安藤恒也委員長他 14 名）は、今年度推薦のあった 26 件の候補について WEB（Zoom）によるオンライン会議で慎重に審議したのち投票によって、前掲の 2 件（2 名）に授与することとした。この結果は令和 2 年 10 月 28 日に開催された第 33 回理事会（WEB 会議）で承認され、11 月 9 日に日本アイソトープ協会会議室において新聞発表を行った。新型コロナウイルス禍のため本年度の授賞式は 12 月 4 日に、鹿野田氏、仲澤氏と令夫人、理事長、常務理事、選考委員長が参加して WEB によるオンラインで執り行われた。受賞記事は、当財団ホームページに加えて、Association of Asia Pacific Physical Societies（AAPPS）の Bulletin にも公開された。

- ・受賞者：鹿野田一司（東京大学大学院工学系研究科 教授）
- ・業績題目：有機伝導体における強相関量子液体の研究
- ・受賞者：仲澤和馬（東海国立大学機構岐阜大学教育学部・大学院工学研究科 シニア教授）
- ・業績題目：原子核乾板を用いたダブルストレンジネス原子核の研究

2. 仁科記念講演会

仁科記念講演会は当財団創立以来の重要な事業で、社会に原子物理学の真髄を啓発するため、毎年一般の参加を得て開催されてきている。

本年度は、以下のように第 66 回定例仁科記念講演会「物理学とコンピューティング」が WEB（YouTube）でライブ配信された。

日 時：令和 2 年 12 月 5 日（土）15:00～17:30

主 催：仁科記念財団

後 援：日本アイソトープ協会
（プログラム）

挨拶：小林 誠 仁科記念財団理事長

司 会：初田 哲男 理化学研究所数理創造プログラムディレクター

講 演：「深層学習と物理学」

橋本 幸士（大阪大学理学研究科物理学専攻 教授）

講 演：「量子アニーリングによる量子コンピューティング」

西森 秀稔（東京工業大学科学技術創成研究院 特任教授）

参加者：350 名超

財団ホームページで「講演録」と「講演動画」を公開。

3. 仁科記念室

仁科記念室は日本アイソトープ協会の敷地の一角にある旧理化学研究所 37 号館（築約 90 年）の一室（約 40 平米）で、仁科博士が逝去された 1951 年 1 月以来そのまま保存されてきた。室内には、書籍、書簡など、わが国の科学技術の発展において仁科博士が果たした役割を再認識するための数多くの資料とともに、博士の往時を偲ぶ愛用の什器も残されていた。しかし、残念ながら日本アイソトープ協会の敷地内建物再整備計画に従って、建物自体が数年内に解体されることになった。そこで、この文化遺産を後世に遺すため、本年度、「仁科記念室内に保存されていた物品」を、理化学研究所（理研）に寄贈し理研和光事業所に移管した。なお、物品搬出前の部屋内部の 3 次元映像が YouTube にアップされており、財団ホームページからみることができる。また、敷地内に設置されていた小サイクロトロン・モニュメントは日本アイソトープ協会から理研に寄贈され和光事業所内に移設された。

(1) 資料の提供

- 10月10日、TBSの報道番組で、日本学術会議創設者の一人である仁科芳雄博士が紹介され、江澤洋評議員へのインタビューが放映された。
- 11月12日、広島市役所で、理研から広島市への「被爆者のご遺骨」他（経緯の詳細は昨年度事業報告書に記述）の返還式が執り行われた。「被爆者の遺骨、原爆開発に携わった物理学者の部屋で発見、広島市に引き渡し」等の見出しで新聞各社が報じた。広島市は「ご遺骨（複数名）」を平和記念公園内の原爆供養塔に納めて遺族からの申し出を待つことにした。本年度、2名が確定し、75年ぶりにご遺族のもとに引き取られた。
- 10月10日～11月29日に愛媛県総合科学博物館で開催された企画展「小川正孝 アジア初の新元素発見者」に、ポア研究所に留学中の仁科博士の写真と小サイクロトロン写真を提供した。仁科博士が1940年に小サイクロトロンを用いて93番元素の発見に迫っていたことが紹介された。
- 12月5日、岡山放送が、仁科芳雄博士生誕130周年記念特別番組「ノーベル賞の源流 仁科芳雄博士～里庄から日本科学の礎を築く～」を放映した。小林理事長、矢野常務理事（元理研仁科センター長）、櫻井運営諮問委員（センター長）、延與助言委員（前センター長）への取材があった。
- 広島の市民団体制作のビデオ「黒い雨はどこまで降ったか～気象専門家 増田善信の約束」に「執務をする仁科博士」の写真を提供した。

(2) 小サイクロトロン・モニュメントの移設について

- 3月2日「小サイクロトロン・モニュメント」が理研和光事業所 RIBF 棟玄関横に移設された。

4. 出版およびホームページ（HP）への掲載

- 2020年度版仁科記念財団案内（2020年6月）を刊行した。
- 故伊藤早苗先生からのご遺贈寄附（詳細は昨年度事業報告書に記述）についての記事をHPに掲載した。「ニュース」から「詳細記事」、「理事長あいさつ」での紹介と御礼、「財団の沿革」での紹介、「仁科記念賞」での仁科記念賞推薦書の紹介を辿れるようにした。
- HPに「Evolutionary Trends in the Physical Sciences」（仁科芳雄博士生誕100周年記念講演会の講演録）、「原子時代の科学」（第1回から第4回まで初期の仁科記念講演会の講演録）を掲載した
- HPに仁科芳雄博士のほぼ全ての和文著作を掲載した。

5. 研究者の海外派遣・招聘（Nishina Asia Award 仁科アジア賞）

本財団は、若手研究者の海外派遣・招聘事業に替わる新たな支援事業として、平成24

公益財団法人仁科記念財団
令和3年度（2021年度）事業報告書

仁科記念財団は、故仁科芳雄博士のわが国及び世界の学術文化に対する功績を記念し、定款第4条に掲げられている通り、広い意味の原子物理学およびその応用に関する研究において次の公益目的事業を行う。(1) きわめて優秀な成果を収めた者に対する仁科記念賞など褒賞の授与 (2) 著名な研究者による仁科記念講演会など学術的交流・集会の開催 (3) 歴史的に貴重な資料・図書などの発掘・研究・保存・公開のための仁科記念室の運営 (4) 知識および思想を普及啓発するための出版物刊行などの活動 (5) 優秀な人材の海外への派遣および外国からの受け入れの助成。

1. 令和3年度（2021年度）に行った公益目的事業

(1) きわめて優秀な成果を収めた者に対する仁科記念賞など褒賞の授与

■第67回仁科記念賞

仁科記念賞は、原子物理学およびその応用に関して傑出した業績をあげた日本の研究者に授けられる賞で、当財団創設の昭和30年（1955年）以来、毎年数名の研究者に授与されてきた。

これまでの受賞者の総数は197名（本年度の4名を含む）となり、その中からは国内外での著名な賞に輝いた受賞者が多く、研究者社会において仁科記念賞の価値と名誉は広く認められている。たとえば、ノーベル物理学賞受賞者6名（江崎玲於奈氏、小林誠氏、益川敏英氏、小柴昌俊氏、中村修二氏、梶田隆章氏）、文化勲章受章者14名、文化功労者21名（2021年度秋の叙勲で2003年受賞者の鈴木厚人氏が顕彰された）、恩賜賞受賞者9名、日本学士院賞受賞者30名となっている。

仁科記念賞規程では、① 6月1日から8月31日の3ヶ月間、当財団ホームページ(HP)、日本物理学会誌、応用物理学会誌等に、仁科記念賞候補者募集要項を公表するとともに、広く学識者からの推薦を公募し ② 授賞件数は3件以内 ③ 選考は選考委員会で行い受賞者には、賞状、賞牌と1件当たり60万円の副賞を授ける ④ 選考結果は理事会の承認を得た後すみやかに新聞紙上等に公表 ⑤ 授賞式は仁科芳雄博士の誕生日の12月6日にこれまでの受賞者を含めた研究交流の懇談会の場で行うとしている。

本年度第67回仁科記念賞もこの規程の通り選考が行われた。選考委員会（安藤恒也委員長他14名）は、今年度推薦のあった25件の候補についてオンライン会議で慎重に審議したのち、次の3件（4名）に授与することに決定した。

1) 業績題目：「スピン誘起マルチフェロイクスの発見と開拓」

受賞者：有馬孝尚

in two-dimensional semiconductors and van der Waals heterostructures”の業績に対し授賞することに決定した。

受賞記事は、本財団 HP と AAPPS の Bulletin に公開された。本年度は新型コロナ禍で招聘できないため、YAO 氏に、賞金を送金し、賞状と賞牌を郵送した。新型コロナ禍が終息し次第、セミナーのために招聘することになっている。

第 10 回 2022 年 Nishina Asia Award は、令和 4 年（2022 年）1 月 1 日から 3 月 31 日の 3 ヶ月間、当財団 HP に候補者募集要項を掲示するとともに、広く世界の学識者からの推薦を公募した結果、25 件の推薦があった。

(2) 著名な研究者による仁科記念講演会など学術的交流・集会の開催

■ 第 67 回定例仁科記念講演会

仁科記念講演会は当財団創立以来の重要な事業で、社会に基礎物理学とその応用の真髓を会得していただくため、毎年一般の参加を得て開催されてきている。

本年度は、以下のように第 67 回定例仁科記念講演会「ニュートリノ物理学と宇宙」がオンライン（YouTube）でライブ配信された。

日 時：令和 3 年 12 月 5 日（日）15:00～17:30

主 催：公益財団法人仁科記念財団

共 催：国立大学法人東京大学宇宙線研究所

後 援：公益社団法人日本アイソトープ協会

（プログラム）

挨拶：小林 誠 仁科記念財団理事長

司 会：中畑雅行 東京大学宇宙線研究所 教授

講 演：「日本のニュートリノ研究のこれまで」

梶田隆章 東京大学特別荣誉教授 宇宙線研究所 所長

講 演：「ニュートリノ振動と CP 対称性の破れ」

市川温子 東北大学大学院 理学研究科 教授

講 演：「ニュートリノで探る高エネルギー宇宙」

石原安野 千葉大学大学院理学研究院 教授

参加者：150 名超

当財団 HP にて「講演録画」を公開している。

(3) 歴史的に貴重な資料・図書などの発掘・研究・保存・公開のための仁科記念室の運営

仁科芳雄博士の執務室（通称「仁科記念室」）に保存されていた史料の理化学研究所への移管が完了したことを踏まえ、それらの整理を理研史料室と共同で行うとともに当財団 HP の「仁科芳雄デジタル記念館」での公開を進めている。

2021年8月7日23:00~24:00にNHKがETVで特集「日本の原爆開発～未公開書簡が明かす仁科芳雄の軌跡～」を放映した。番組で使用された未公開書簡は、現在は、当財団 HP に公開している。

(4) 知識および思想を普及啓発するための出版物刊行

本年度も、仁科記念講演会の講演録とその講演録画とともに、当財団がこれまで刊行してきた雑誌等を電子化して HP の「出版および史料研究調査」に順次公開してきた。

刊行物としては、例年通り、2021年版仁科記念財団案内（2021年6月）を刊行した。これまでの財団案内は、すべて HP で閲覧、ダウンロードできる。

(5) 優秀な人材の海外への派遣および外国からの受け入れの助成

本年度は、新型コロナ禍のために Nishina Asia Award 受賞者を招聘できなかった。

2. 賛助会員および特別寄附

- 本年度の賛助会員数は6法人（科研製薬株式会社、鹿島建設株式会社、キックマン株式会社、住友化学株式会社、住友重機械工業株式会社、公益財団法人本田財団）、1個人。
- 公益社団法人日本アイソトープ協会から昨年度に続き特別寄附金を頂戴し、用途を公益目的事業に限る「特定資産」に繰り込んだ。
- 公益財団法人科学振興仁科財団（岡山県里庄町）から昨年度に続き特別寄附金を頂戴し、「特定資産」に繰り込んだ。

3. 物故

- 2021年9月16日、元理事 仁科雄一郎氏が逝去された。享年91歳。
- 2022年3月11日、元助言委員 近藤淳氏が逝去された。享年92歳。

4. 会議

本年度開催した評議員会、理事会、選考委員会、運営会議・運営諮問委員会の開催日時、出席者、議事は以下の通り。新型コロナ禍のためすべてオンライン会議となった。なお、評議員会と理事会の議事録は、HP に公示している。

(1) 評議員会

1) 第11回（定時）

日時：令和3年6月11日 13:00~14:00

公益財団法人仁科記念財団
令和4年度（2022年度）事業報告書

仁科記念財団は、故仁科芳雄博士のわが国及び世界の学術文化に対する功績を記念し、定款第4条に掲げられている通り、広い意味の原子物理学およびその応用に関する研究において次の公益目的事業を行う。(1) きわめて優秀な成果を収めた者に対する仁科記念賞など褒賞の授与 (2) 著名な研究者による仁科記念講演会など学術的交流・集会の開催 (3) 歴史的に貴重な資料・図書などの発掘・研究・保存・公開のための仁科記念室の運営 (4) 知識および思想を普及啓発するための出版物刊行などの活動 (5) 優秀な人材の海外への派遣および外国からの受け入れの助成。

1. 令和4年度（2022年度）に行った公益目的事業

(1) きわめて優秀な成果を収めた者に対する仁科記念賞など褒賞の授与

■第68回仁科記念賞

仁科記念賞は、広い意味の原子物理学およびその応用に関して傑出した業績をあげた日本の研究者に授けられる賞で、当財団創設の昭和30年（1955年）以来、毎年数名の研究者に授与されてきた。

これまでの受賞者の総数は199名（本年度の2名を含む）となり、その中からは、その後国内外での著名な賞に輝いた受賞者が多く、研究者社会において仁科記念賞の価値と名誉は広く認められている。たとえば、ノーベル物理学賞受賞者6名（江崎玲於奈氏、小林誠氏、益川敏英氏、小柴昌俊氏、中村修二氏、梶田隆章氏）、文化勲章受章者14名、恩賜賞受賞者9名、日本学士院賞受賞者30名となっている。

仁科記念賞規程では、① 6月1日から8月31日の3ヶ月間、当財団ホームページ(HP)、日本物理学会誌、応用物理学会誌等に、仁科記念賞候補者募集要項を公表するとともに、広く学識者からの推薦を公募し ② 授賞件数は3件以内 ③ 選考は選考委員会で行い受賞者には、賞状、賞牌と1件当たり60万円の副賞を授ける ④ 選考結果は理事会の承認を得た後すみやかに新聞紙上等に公表 ⑤ 授賞式は仁科芳雄博士の誕生日の12月6日にこれまでの受賞者を含めた研究交流の懇談会の場で行うとしている。

本年度第68回仁科記念賞もこの規程の通り選考が行われた。選考委員会（安藤恒也委員長他14名）は、今年度推薦のあった25件の候補についてオンライン会議で慎重に審議したのち、次の2件（2名）に授与することに決定した。

1) 業績題目：「スピン流物理学の開拓」

受賞者：齊藤英治

東京大学大学院工学研究科・教授

■第 68 回定例仁科記念講演会

仁科記念講演会は当財団創立以来の重要な事業で、社会に基礎物理学とその応用の真髓を会得していただくため、毎年一般の参加を得て開催されてきている。

本年度は、以下のように第 68 回定例仁科記念講演会「スピン流の理（ことわり）と使い途」が開催された。

日 時：令和 4 年 12 月 5 日（日）15:00～17:30

場 所：東京大学本郷キャンパス工学部 2 号館 212 号講義室
（Webinar にてライブ配信）

主 催：公益財団法人仁科記念財団

共 催：東京大学大学院工学研究科物理工学専攻

後 援：公益社団法人日本アイソトープ協会

（プログラム）

挨 拶：小林 誠 仁科記念財団理事長

司 会：家 泰弘 仁科記念財団常務理事

学校法人中部大学 理事・副総長

講 演：「スピンはめぐる一固体の中で」

永長 直人 理化学研究所創発物性科学研究センター副センター長

東京大学工学系研究科 教授

講 演：「スピン流と角運動量の物理」

齊藤 英治 東京大学工学系研究科 教授

参加者：55 名（会場）、139 名（オンライン）

当財団 HP にてポスターと「講演録画」（YouTube）を公開している。

（3）歴史的に貴重な資料・図書などの発掘・研究・保存・公開のための仁科記念室の運営

仁科芳雄博士の執務室（通称「仁科記念室」）に保存されていた史料の理化学研究所への移管が完了したことを踏まえ、それらの整理を理研史料室と共同で行うとともに、当財団 HP の「仁科芳雄デジタル記念館」での公開を進めた。

（4）知識および思想を普及啓発するための出版物刊行

本年度も、仁科記念講演会の講演録とその講演録画とともに、当財団がこれまで刊行してきた雑誌等を電子化して HP の「出版および史料研究調査」に順次公開してきた。

刊行物としては、例年通り、2022 年版仁科記念財団案内（2022 年 6 月）を刊行した。これまでの財団案内は、すべて HP で閲覧、ダウンロードできる。